カトリック山手教会月報

やまて

編集・発行　カトリック山手教会 広報委員会　〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎（045）641－0735　http://catholicyamate.org/
第636号　2023年2月12日

絵本の中に見る福音

主任司祭　ミカエル鈴木 真

ご存じのように、わたしは子どものミサなどでよく絵本を使います。この季節、２月といえば節分。わたしは「鬼もの」の絵本が大好きです。毎年、灰の水曜日に横浜雙葉学園の小学校で１年生に話をしますが、難しい話は無理だろうと「灰」の意味と四旬節のことをササっと話した後、「鬼もの」の絵本を４～５冊立て続けに読み聞かせて、ひいひい言わせてます(笑)。

「鬼」というのも不思議な存在で、その起源は、さまざまに言われますが、絵本の中では基本「悪者」です。でも、そんな鬼の存在を実に感動的な物語にした絵本が多いのも事実でしょう。不朽の名作であろう『ないたあかおに』や『おにたのぼうし』。共通しているのは、人に忌み嫌われる鬼、でも、中には、とても心優しく人間のことを思いやっている鬼もいる…という内容です。対して、あくまで悪者である鬼が、人間の子ども（たいていは小さな女の子）にぎゃふんと言わされて、トホホとなる物語も少なくありません。つまり、「強者」の代表である鬼が「弱者」である人間を思いやる、また、逆に「強者」の鬼が「弱者」の代表とも言える人間の小さな女の子にやり込められる…これって、とても福音的ですよね。

そう考えると、このようなパターンの絵本は他にもたくさんあることに気づかされます。同じく絵本の中では「強者」であり「悪者」でもある、オオカミやキツネなど。そんなものたちが実は心優しかったり、逆に「弱者」である他の動物に負けちゃったり…現実にはあり得ないこと（？）を描くことで、実は絵本の中に置かれている「福音的要素」が輝いていることに、いつも感動します。

とは言え、わたしは根がヤクザというか不良から更生しきれてないというか…とにかく絵本を読み聞かせるとき、どうしても「悪者」役にはまってやりすぎます。以前、ある教会の「子どもミサ」で「オオカミもの」の絵本を読んだとき、あまりにオオカミの役を迫真の演技でやり過ぎたため、一人の子どもが「怖いよ～」と泣き出しちゃいました。周りの大人たちはみんな笑ってましたが、ミサ後に教会学校のリーダーたちから「子どもミサで子どもを泣かしてどうするんですか！」と、さんざん怒られました…。まったく、大人気ないですね。

懲りないわたしは、今年も灰の水曜日に横浜雙葉学園の小学１年生に、鬼もの5連発でひいひい言わせちゃおうと思っています。皆さんも「鬼もの」の絵本をご存じでしたら、ぜひ教えてください。

鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2022年11月27日　待降節第１主日　A年
マタイ福音書　24章　37－44節

「目を覚ましていなさい」…いつも言うことですが、聖書において「目」は心の状態を象徴するものです。「目を覚ましている」とは、心を研ぎ澄まして、

人のいたみや苦しみにいつも敏感である、ということでしょう。

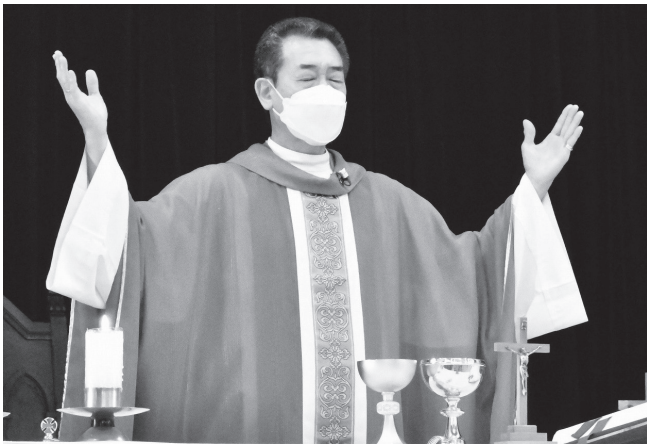
裁きを語るのが好きなマタイは、「世の終わりはいつ来るかわからない、だから常に準備していなさい」という感じで言いますが、これは決して「自分が」立派な人間となる、正しくあるということではありません。「神さまが」いかにわたしたちを深く愛しておられるかに目を向け直し、その「神さまが」真っ先に誰に目を向けておられるか…つまり「神と人へ」と目を向け直すことに他ならないでしょう。

今年も待降節を迎えました。待降節は、「喜びをもって主の降誕を待ち望むとき」である、とされます。なので、四旬節がどちらかというと「苦しむ人々に目を向け、そのために節制をする」ときである…と言われるのに対し、待降節は、むしろ「人と喜びを共にする」ときである、と言えるでしょう。

「主の降誕」が近づくと、それだけで自然とうれしくなります。無論、何となくウキウキしてくる街の雰囲気もありますが、みんながうれしさを抱くこと自体が、与えられた大きな恵みでもあるのでしょう。そして、何よりも、イエスというお方がこの世に来られたことの喜びの大きさが、「その喜びを一人でも多くの『誰か』と分かち合いなさい」と言われているしるしなんだと思います。

今年も「主の降誕」に向けて準備を始めるときを迎えて、一人でも多くの「誰か」を喜ばせることができますよう、共に祈りたいと思います。

2022年12月18日　待降節第４主日　A年
マタイ福音書　１章　18－24節



皆さんご存じだと思いますが、イエス誕生の物語を具体的に書くのは、聖書の中でもマタイ福音書とルカ福音書だけです。そして、興味深いのは、ルカが徹底してマリアの側からそれを描こうとするのに対して、マタイは逆にヨセフ側から描きます。

マタイにとっては、イエス・キリストの出来事そのものが、すべて旧約で預言されたことの実現であるので、特にイエス誕生の場面では、この箇所のように「この…ことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった」と何度も言い添えます。

きょうの箇所で引用されているのは、旧約のイザヤ書７章14節ですが、考えてみれば旧約において救い主到来の預言は、それこそ山ほどあるのに、なぜマタイはここを選んだのか。さらに、マタイは、わざわざ「インマヌエル」とヘブライ語で書いて、そのあとに「この名は、『神は我々と共におられる』という意味である」と説明します。実は、これはマタイ福音書全体を貫くテーマがまさに「共におられる神」であるからなんです。だからこそ、マタイ福音書の最後の部分は、復活されたイエスが弟子たちに言った言葉「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」で終わるわけです。

いつでもどこでも、どんなときにも、わたしたちに寄り添ってくださる神さま。そして、そのことをわたしたちに示し、自らも、そのしるしとして、この世を超えてわたしたちと共にいてくださるイエス・キリスト。マタイ福音書は全体として、そのことをわたしたちに伝えようとしているんですね。

いつもこの季節に思うことですが、イエスが世に来られなかったなら、今、わたしたちは、ここにいません。…というか、「この世」は今とは全く違うものになっていたことでしょう。その意味でも、イエスがこの世に来られたこと自体が、わたしたちのいわば存在意義でもあり、また、言い表せないほどの大きすぎる恵みである、と言えます。

今年も、「主の降誕」まであと１週間となりました。救い主が世に来られたことの、とてつもない大きな喜びを、今年もまた一人でも多くの人と分かち合いたい、と思います。

2023年１月８日「主の公現」 A年
マタイ福音書　２章　１－12節

東方から占星術の学者が訪れる…何年か前に、この箇所に関して、ある方が「ここでは『旅』という要素がポイントとしてある」と書いておられました。遠く東方からはるばる「旅」をしてきた学者たちが、これもまた「旅」の途中でお生まれになったイエスと出会う。ここに「旅する教会」の姿が暗示されている、とありました。

「旅する教会」とは、実は現代的な教会論における大きなポイントとなる言葉です。ミサの中では、普段、教会ではあまり使わない第３奉献文の中に、「地上を旅するあなたの教会」とあります。

わたしが長年勤めている横浜雙葉学園では、なぜか小学校、中高共にミサでは、この第３奉献文を使っていました。昨年、ミサの式文が新しくなったことで、奉献文も教会でよく使われている「第２」に変更したのですが、第２奉献文では「世界に広がるあなたの教会」となっています。ある方からは「こっちの方がわかりやすい」と言われてしまったんですが…。

何かと引き合いに出す「教会」と訳された言葉〈エクレシア〉は“呼ばれた者の集まり”という意味で、ゆえに、「教会」とは建物や場所のことではなく「人の集まり」なんだ、といつも説明しています。つまり、その「教会」のベースには「召される（呼ばれる）」という要素があるわけですが、それだけではなく、同時に「派遣されている」という面もあります。「旅」と言うと、旅行などをイメージされるかもしれませんが、わたしたちは常にどこかに「派遣されている」ということです。なので、「教会」は１か所に留まるのではなく、常に、さまざまな場へと「派遣」されている。そこには、かつての宣教師たちのように、実際に世界中を「旅」する姿もあるでしょうが、ある意味わたしたちは、家庭という場にも「派遣」されている、と言ってもいいかもしれません。

神さまによって呼び集められたわたしたちは、同時にさまざまな場へと派遣されている。そして、その先でまた呼び集められ、その、わたしたちを通して神ご自身がはたらかれている…それこそが「旅する教会」の姿であり、神さまが主体となってわたしたちを通してなされる「宣教」そのもの、とも言えるでしょう。

救い主誕生のしるしに気づき、それを頼りにはるか遠くから「旅」してきた学者たちの姿の中に、同じように、さまざまな場へとわたしたちが「派遣」されていることを見いだして、常にわたしたちが「旅する教会」であり続けることができますよう、共に祈りたいと思います。

（撮影：編集部　土方芳人）

日本聖公会横浜教区との「合同夕の礼拝」に参加して

横浜教区では、毎年キリスト教一致祈祷週間（１月18日～25日）に合わせて日本聖公会横浜教区と合同で祈りの集いを実施しています。2023年は、１月22日に山手教会に程近い横浜山手聖公会において「合同夕の礼拝」が行われました。

これは、梅村司教様が司教に就任後に始められた合同行事で、毎年、当教会の『今週のお知らせ』に載ってはいるものの、知名度が今ひとつなのか、参加者はあまり多くありませんが、私は個人的に興味があり10年程前から参加しています。しかし、コロナ禍のため2020年１月の雪ノ下教会での開催以降は信徒の参加制限が継続中で、今回は当寄稿のために、特別に参加させていただきました。

合同礼拝はカトリックと聖公会が毎年交互にそれぞれの教会で開催しており、礼拝のスタイルは主催する側の式次第に合わせて行われます。説教はビジター側の司祭が行い、今年はカトリック溝ノ口教会小教区管理者の小田武彦師が担当されました。合同礼拝には、梅村司教様と日本聖公会横浜教区からは入江修主教様をはじめ、それぞれの司祭が多数参加されます。今回は、梅村司教様が体調不良のため残念ながらご欠席でしたが、双方のトップが揃って入退堂する姿は実に壮観で、普段のミサとは一味違う貴重なシーンを身近に拝見することができます。

コロナ前は、終了後にお茶とお菓子の接待もあり、聖公会の関係者とも気軽に懇談できたり、双方

の韓国人司祭が韓国語で談笑したり、和気あいあいとしたとてもすばらしい時間を過ごせました。

この原稿を読んで興味を持っていただけたら、来年以降、参加制限が解除されたときには皆さん、ぜひ足を運んでみてください。参加者が増えて自分だけの密かな楽しみでなくなるのは、ちょっと悔しいですけど…。次回は、カトリック教会の担当です。

（文：岡崎芳浩＜ヨゼフ会＞
撮影：編集部　田中麻子）

横浜教区神奈川第３地区共同宣教司牧委員会開催

2023年１月15日（日）15時から港南教会で、2023年度第１回横浜教区神奈川第３地区共同宣教司牧委員会が開催されました。この集まりは、四半期に一度、第３地区の７つの教会が会場持ち回りで活動報告や審議をする集まりです。今回も各教会から神父様や教会委員長など、それぞれ３、４人が集まりましたが、前回同様コロナ禍で地区としての報告事項が少なかったため、各小教区でのコロナ対策や近況報告を分かち合ったことが、特に有意義な時間となりました。

まず、ミサに関してですが、人数制限をしている教会、徐々に緩和している教会、制限を全くしていない教会、歌を歌っている教会、部分的に歌っている教会、まだ慎重な教会など、それぞれの環境に応じて適切に取り組んでいることが報告されました。全体としては、徐々に元に戻そうという方向であることは共通しているようでした。また、磯子教会と保土ヶ谷教会では、行政とも連携しながら子ども食堂の活動をしていることが報告されました。地域のボランティアの方々とも一緒に活動されていて、コロナ禍でのこのような活動に、教会の皆さんも生き生きしているとのことでした。

また、参加者は、小教区の神父様と信徒だけではなく、第３地区内の修道会やENCOM（難民移住移動者委員会）やステラマリス（船員司牧）などで活動されている方々も参加されていて、山手教会でも協力した毛糸の帽子を船員さんにお渡しする活動の報告もありました。主に戸塚教会と山手教会からの協力が多かったとのことと、130隻2400人以上の方にお渡しすることができたとの報告がありました。また、コロナ禍のため中止になっていたステラマリスの世界大会が昨年急遽グラスゴーで行われ、日本からは横浜教区のお一人だけが参加することができたとの報告がありました。

次回は、４月30日（日）15時から末吉町教会で行われる予定です。今年は、地区の活動も少しずつ行われるのではないかと思いますので、何かあれば皆さんも積極的にご参加いただければと思います。

（教会委員会　委員長　小倉 謙）

第２回ミニ福祉イベント開催の御礼

11月27日・12月４日の両日に、第２回目のミニ福祉イベントを開催することができました。２日間にわたり多くの皆様のご協力をいただきまして、盛況のうちに開催することができました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。今回も参加団体から届いた御礼の言葉をご紹介させていただきます。

社会福祉法人恵友会（ギッフェリ・ほっとスペース関内）

コロナ禍で中止となっているチャリティーバザーにいつも出店して下さっている7つの福祉団体にお声掛けし、ミニバザーがにぎわいました。クリスマスが近いこともあり、素敵なリース、ツリー、オーナメント、マスク等も人気でした。パン・お菓子販売をして下さった白根学園の「麦の丘」「のぞ

み」のメンバーさんからは「楽しく販売できました」、また「ギッフェリ」のメンバーさんからは「信徒の方とたくさんお話ができ嬉しかったです」と社会参加の喜びの感想をいただきました。

３月末にその役割を終え、閉所したミカエラ寮からロザリオやおメダイからTシャツ、押し花アート作品まで沢山の品物をいただき、ご寄付を募りました。バザーで集めた上野町教会のフードパントリー用の食品と共に、収入の中から早速寄付金1万円を当日お届けすることができました。　（坂口育子）

ＮＰＯ法人たんまち福祉活動ホーム

この度は福祉バザーに参加させていただき、誠にありがとうございました。私たち、たんまち福祉活動ホームは神奈川区の障害者の方々の生活支援に携わっております。利用者の方々が心を込めて作った製品をご購入下さったことが、皆の大きな励みとなりました。これからもよい製品の作成に努めてまいります。信徒の皆様、そして運営の皆様に心より感謝申し上げます。　（和田香苗）

社会福祉法人白根学園（麦の丘・のぞみ）

この度はバザーにお招きいただき、ありがとうございました。麦の丘は普段は20名程の利用者さんと職員でパン作りをしている小さなパン工房です。和気あいあいとした雰囲気の中、仲間と一緒に仕事ができる喜びを感じながら毎日心を込めてパンを作っています。今回のバザーでは麦の丘のパンと、同法人就労のぞみの焼き菓子を販売させていただきました。たくさんのお客様に購入していただき、ありがとうございました。

当日は皆さまからたくさんのお声を掛けていただき、心温まる時間を過ごさせていただきました。素敵なクリスマスの季節に、歴史ある山手教会のバザーに参加させていただき、貴重な経験となりました。一緒に販売に参加された利用者さんも、お客様から「おいしそうね」と声を掛けていただくたびに嬉しそうな表情をされていました。後日も「楽しかった」と繰り返し話され、よい思い出となったようです。お客様と直接お話しできること、嬉しいお言葉をいただけることは利用者さんが日々パン作りをする上で何よりの励みになっています。素敵な機会をいただき、感謝いたします。今後も、利用者さんを交え交流させていただけますと幸いに存じます。この度はありがとうございました。（広橋 梓）

シャロームの家

良く売れました。先ずはバザーへのお招き有難うございました。主に利用者と職員の合作のクリスマス用の製品を販売いたしました。予想外の売り上げがありました。収益金は全て、利用者の工賃（給料）に当てられます。ここしばらく、コロナの影響でバザーやイベントが出来なかったので、大変うれしかったです。両隣に出店していた本牧ダック、たんまち福祉活動ホーム、ギッフェリさんとも、同じ仲間としてよい時間が持てました。

最後に福祉委員会の皆様、有難うございました。感謝を込めて。　（原木哲夫）

NPO法人たんまち福祉活動ホームの売り場で

（福祉委員会　委員長　大森秀樹）

ICC主催「降誕祭の祈りとキャロル」開催

2022年12月４日（日）午後５時からICC主催による「降誕祭の祈りとキャロル」が、３年ぶりに教会ホールで開催されました。

参加したのは、出演順で①土曜日ミサの聖歌隊②子どもたちの聖歌隊③日曜日９時30分ミサの聖歌隊④日本人の聖歌隊⑤インド人の聖歌隊⑥フィリピン人の聖歌隊―でした。なお、日本の聖歌隊が歌った曲目は、①ひさしくまちにし②Jam desinant（ラテン語）③きかせてください―で、すべて混声四部合唱で演奏しました。

集会は、司会者の挨拶に続いてダリル師のリード

で、この集会を始めるにあたってのお祈りを行い、ICC会長のピエール氏による開会の辞、ICCメンバーの一家族による待降節のロウソク点灯、各聖歌隊の演奏と“信徒の祈り”の順番で進められました。演奏のフィナーレは、オランダ語の“しずけき”が披露され、続いて、すべての聖歌隊が、それぞれの国の言葉で順番に“しずけき”を歌いました。

会場全体が神を賛美する聖歌により国籍に関係なく一つになり、笑顔が満ちあふれ、とてもすてきな集会でした。

最後に、ダリル師から派遣の祝福をいただいた後、閉幕となりました。

子どもたちの聖歌隊

（聖歌隊　土方芳人）

新成人の祝福

１月８日（日）11時30分ミサ後に、主任司祭・鈴木真師司式による「新成人の祝福」が行われ、参列していた信徒が新成人を祝いました。

鈴木師は、ミサ冒頭の挨拶で「改めまして、皆さん新年あけましておめでとうございます。『主の公現』を迎えました。降誕節の締めくくりにあたって、新しい年も、神さまがわたしたちに豊かに聖霊を注いてくださるよう、共に祈りましょう。また、このミサの後で、今年、成人式を迎えられる方々の祝福をいたします。成人となられる方々と、そのご家族の上に、神さまからの豊かな祝福がありますよう、どうぞお祈りください」と話されました。

式典の最後に、司祭から記念品として祝別された聖書が手渡され、それぞれが会衆の前で自己紹介をして終了しました。

ミサ終了直後の式典でしたので、多くの信徒から祝福の拍手を受け、参加者はうれしそうでした。

今後、若い力を山手教会共同体のために、何らかの形で貢献していただければ幸いです。

参加者は次の方々です。（敬称略）

マリア・マーガレット　福留 彩
テレサ・マーガレット　福留 萌

鈴木師とご家族とともに

（編集部　土方芳人）

2023年１月度教会委員会議事要約

日時：2023年１月８日（日）13：30～15：40
場所：司祭・信徒館１階「松・竹」
議事内容（議事進行：小倉委員長）

１　主な審議確認検討事案　※順不同

⑴　四旬節～聖週間について

- 今年の復活の主日は、４月９日（日）。
- 灰の水曜日は、２月22日（水）。
- 枝の回収は、１月22日（日）より。箱の準備は依頼済み。お知らせにも掲載する。
- ２月26日（日）藤沢教会で合同志願式。申込締め切りは、１月31日（火）。中止となった場合は、山手教会で行う。
- 受難の主日（枝の主日）は、４月２日（日）。

【決定事項】

・復活祭の詳細については、別途検討する。

⑵　ミサでの歌について

- 聖歌隊としては、四旬節の日曜日11時半ミサで入祭、各賛歌などを歌いたい。

●子どもミサについても歌うようにしていきたい。
●グレゴリオ聖歌についても対応したい。
【決定事項】
・日本語のミサの聖歌については、できるだけミサへの会衆の参加を増やすための考慮を行う必要があるものの、今後に向けて聖歌隊の準備を行う。

⑶　コロナ禍のミサと教会活動
●教会として、今後の対応について検討を進める。
●ミサの人数制限は、ミサが聖堂に戻った際に規制を解除する方向で検討する。
●ミサのライブ配信は、規制を解除するタイミングで終了する。しかし、この配信は思わぬ遠方の方から「山手のミサを見ています」と連絡をいただくことも多いことから、今後、大きなイベントの場合など機会を選んで行うことを検討する。
【決定事項】
・復活祭については、別途詳細を検討する。

⑷　冠婚葬祭について
●未信者からの結婚式についての問い合わせが増えている。今後の方針を伺いたい。
●葬儀ミサの先唱者を増員したい。
●この１年間に帰天された方の人数は、例年に比べて大変多くなっている。
【決定事項】
・受け入れ態勢が整備されるまでは、未信者同士の結婚式を原則として受けない。
・冠婚葬祭のプロジェクトチーム立ち上げが早急に必要。

⑸　聖体奉仕者について
●聖体奉仕者をお願いして、２人体制でできればと考えている。
【決定事項】
・神父様がメンバーなどを確認し、日曜朝昼のミサの聖体奉仕を開始する。

２　今後の活動、報告事項

【横浜教区典礼研修会について】
●２月11日（土・祝）藤沢教会で開催。
●昨年と同様に動画配信の上、後日、小教区ごとに分かち合いを行う。
【福島やさい畑について】
●福島やさい畑による販売の再開を進める。
【第３地区共同宣教司牧委員会について】
●１月15日（日）15時から港南教会で開催。
【ロザリオ会より】
●２月３日（金）９時半よりロザリオ会主催のミサを行う。
●ロザリオ会以外の方にも、ぜひ、お越しいただきたい。
【聖堂絵画修復の件について】
●12月の委員会で聖堂の絵の修復を進めることが決まり、絵の取り外しを行った。取り付けが複雑ではあったが、無事取り外しができた。
●現在、修復の作業を始める準備を行っている。
●修復作業は、３か月程度の期間を要する見込み。
【聖堂修繕工事について】
●修繕は予定どおり順調である。新たに予想外のものが見つかることもあるが、順調にクリアしている。
●外部の傷みが激しい部分と新たに手を加える部分に関しては、４月中旬から下旬の完成を見込んでいる。
●復活祭は、外側の工事が完了していなくとも聖堂が使えるように依頼。
●大屋根のふき替えは、ほぼ完了しており、仮屋根が外れれば見えるようになる。
【クリスマス・年末年始のミサについて】
●大きな問題なく無事に終了した。

３　主任司祭から

●１月５日（木）に司祭・信徒館１階「松・竹」で大学生12人（うち６人が山手の青年）が集まり、新年会を行なった。
●ダリル師は、１月11日（水）から27日（金）まで休暇。
●１月22日（日）16時から、聖公会との合同祈祷会が山手聖公会で行われる。
●教区典礼委員会により、５月、６月に臨時の聖体奉仕者の研修が行われる見込み。

４　次回教会委員会

2023年２月５日（日）13時30分～ 15時00分終了予定。

（総務担当　宮 裕一）

2023年２月・３月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主　日	聖　歌（歌わずに章句を唱えます）			聖歌隊	時　間	奉　仕　者				ミサ参加割当
		答唱詩編	アレルヤ唱	感謝の讃歌			オルガン	先　唱	聖書朗読		
２月12日	年間第６主日	典75 ①④	典271 年間第6A			前日pm5：00	村　松	斎　藤	小佐井	福田(直)	夜ミサAB
						７：30	太　田	二　宮	田　口	神　近	朝ミサAB
					＊	11：30	佐　藤	遠　藤	川　田	木　原	昼ミサA
19日	年間第７主日	典93 ①③④	典268 年間第7A			前日pm5：00	藤　沼	工藤(元)	飯　塚	志　村	夜ミサAB
						７：30	渡　邊	末　澤	早川(真)	細　谷	朝ミサAB
					＊	11：30	中　川	村田(義)	池　田	上　瀧	昼ミサB
22日	灰の水曜日					11:30(予)	太　田	曽　禰	時　久	羽　石	別途選定
26日	四旬節第１主日	典６①② 典７①	詠唱 典260 四旬節第1			前日pm5：00	忠　海	竹之内	羽　石	阿部(眞)	夜ミサAB
						７：30	渡　邊	亀　井	東海林(正)	津久井	朝ミサAB
					＊	11：30	手　塚	藤原(ま)	川　田	鈴木(理)	昼ミサA
３月５日	四旬節第２主日	典46 ①③⑤	詠唱 典260 四旬節第2			前日pm5：00	藤　沼	竹之内	新井田	島田(節)	夜ミサAB
						７：30	中　川	石　賀	島　田	武　田	朝ミサAB
					＊	11：30	手　塚	山本(紀)	後　藤	紀國谷	昼ミサB
12日	四旬節第３主日	典35 ①③④	詠唱 典260 四旬節第3A			前日pm5：00	村　松	斎　藤	小佐井	福田(直)	夜ミサAB
						７：30	太　田	二　宮	田　口	神　近	朝ミサAB
					＊	11：30	佐　藤	遠　藤	川　田	木　原	昼ミサA
19日	四旬節第４主日	典123 ①③④	詠唱 典260 四旬節第4A			前日pm5：00	村　松	工藤(元)	飯　塚	志　村	夜ミサAB
						７：30	渡　邊	末　澤	早川(真)	細　谷	朝ミサAB
					＊	11：30	中　川	村田(義)	池　田	上　瀧	昼ミサB
26日	四旬節第５主日	典117 ①③④	詠唱 典262 四旬節第5A			前日pm5：00	忠　海	田中(麻)	羽　石	阿部(眞)	夜ミサAB
						７：30	手　塚	亀　井	東海林(正)	津久井	朝ミサAB
					＊	11：30	太　田	藤原(ま)	中　山	鈴木(理)	昼ミサA

編　集　後　記

山下公園前の海上では、11月下旬から翌年３月末頃までユーラシア大陸極北部、北米大陸極北部のツンドラ地帯から毎年かわいらしい小型のスズガモが100羽程度やって来て越冬します。しかし、たまに他の渡り鳥が来ることもあります。昨年12月中旬にハジロカイツブリが、“つがい”で寄り添ってスズガモの群れと離れた岸壁近くにいました。この２羽が寄り添っていることは珍しいことです。その理由は、捕食のために一息で海中を泳いでいる時間が長いためです。測定すると、50 秒から１分ぐらいは潜っていました。このため、数回息継ぎをして泳ぐと、かなりの距離を移動することになり離れてしまうからです。ちなみに、スズガモが同様に捕食で海中に潜っている時間は20秒から30秒です。この日は、オナガガモも“つがい”で岸壁近くを泳いでいましたが、突然、何とスズガモの群れの中に分け入り、悠然と突っ切って行きました。スズガモの体長が42㎝に対しオナガガモは65㎝ですので、見失うことはありませんでした。しかし、スズガモたちは全く慌てることもなく、そしらぬそぶりでした。このように３種類の鳥たちが同じ海域で仲良く共存していることが分かり安心しました。しかし、オナガガモとハジロカイツブリがこの海域に飛来するのは稀で、スズガモの他によく見かけるのは、忍者のように全身黒ずくめのクロガモです。彼らを観察するのができることも、ジョギングの楽しみの一つです。　（土方芳人）

☆表紙のカット（山手教会）は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。